精神保健福祉援助実習指導B

単位数	履修方法(授業形態)	配当学年
1単位	SR(演習)	4年

科目コード	CX5189	担当教員	阿部 正孝／志村 祐子／大和田 誠子／八巻 幹夫ほか

※平成24年度以降入学者に対して開設されている科目です。平成23年度以前に入学した方、福祉心理学科の方は履修することはできません。

※「精保実習指導 B」のスクーリングを欠席された場合、「精神保健福祉援助実習 B」は受講できなくなります。

※実習履修者のスクーリングは「精保演習 C」との組み合わせによる同時受講が必須です。

※今後の実習受け入れ状況などにより、ここに記載の内容を変更する場合があります。詳しくは『With』等でご案内します。

※実習免除者は受講不要です。

※本科目の開講形態は本冊子「精神保健福祉援助演習C」の「演習・実習指導のコマ数と組み合わせ開講の流れ」を参照ください。

■科目の内容

精神保健福祉士として必要な具体的かつ実践的な専門技術等の習得を図ることを目的とします。また、併せて精神保健福祉援助実習の意義について理解をするとともに、地域精神保健福祉活動における実習分野（利用者理解を含む）と精神科医療機関に関する基本的な知識を理解することを目的とします。

精神科医療機関実習に向け、これまでの学びを体系的に整理し、自分の課題を明確にできるよう、事前学習にしっかりと取り組んでからスクーリングに臨んでください。

■到達目標

①精保実習Ｂ受講前

1）病院ワーカーの役割について説明できる。

2）実習先を理解して説明できる。

3）対象となる利用者の病気を理解して説明できる。

4）実習計画（案）が立てられる。

②精保実習Ｂ受講後

1）精神保健福祉士の役割について説明できる。

2）精神保健福祉士に求められているもの、必要とされているものについて整理して他者へ伝えることができる。

3）自己の特性についての自己覚知ができる。

■教科書（「■精保実習指導A」「■精保実習A・B」と共通）

1）新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会『改訂新版　精神保健福祉士養成セミナー8　精神保健福祉援助実習指導・現場実習』へるす出版、2013年

2）『精神保健福祉援助実習B課題ノート』

3）その他、補助教材（必要に応じ適宜配付）

※2） 3）は「精保実習指導B」受講対象者ならびに「精保演習C」(実習免除者）に別途配付。

（最近の教科書変更時期）2014年4月

※1）は「■精保実習指導A」で配本のため、この科目での教科書配本はありません。

■履修登録条件

この科目は「■精保演習A・B」「■精保実習指導A」「■精保実習A」をすでに履修登録済みで、「■精保演習C」と「■精保実習B」を同時に履修登録する方のみが履修登録できます。

※その他、履修の前提科目は『学習の手引き』3章をご参照ください。

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	精神保健福祉援助実習の意義と特徴 （基礎編　第1章Ⅰ～Ⅴ）	「精保実習A」での体験を踏まえ、改めて実習の意義とねらいについて理解する。実習の意義や養成校としての大学と実習機関との役割分担について理解する。 キーワード：職業倫理、守秘義務、地域生活支援、権利擁護、チームアプローチ、アウトリーチ、ネットワーキング	教科書の“「精神保健福祉援助実習指導」のねらいと含まれるべき事項”を読み「実習指導のねらい」について理解する。
2	実習の学習内容と基本的な流れ （基礎編　第2章Ⅰ・Ⅱ）	「精保実習A」での体験・学びを踏まえ、医療機関実習における学習内容と実習の基本的な流れについて理解する。 キーワード：生活の質（QOL）、人と状況の全体性、生活者支援の視点	実習現場において学ぶ、クライエント、施設・機関、生活問題、支援の過程についての知識と経験について理解する。
3	実習の準備と事前学習 （基礎編　第3章Ⅰ・Ⅱ）	「精保実習A」での体験を踏まえ、医療機関実習の事前準備としてどのようなことが求められるのかを理解する。 キーワード：地域移行支援、措置入院、医療保護入院、チーム医療	「精保実習B」の事前準備については本学独自に『精保実習B課題ノート』の所定の範囲の学習、ならびに『実習計画（案）』の作成等が課せられている。一般的な実習の事前準備と流れについては教科書から理解しておく。

回数	テーマ	学習内容･キーワード	学びのポイント
4	事前学習の意義と目的・内容・方法 （基礎編　第 3 章Ⅲ～Ⅴ）	特に医療機関における実習を想定し、事前学習の意義と目的・内容・方法について理解する。 キーワード：生活のしづらさ、社会的入院、言語化と応答性、父性的保護主義（パターナリズム）、リカバリー、クライエントの自己決定の原理、自己覚知、倫理綱領、地域移行支援、地域定着支援、守秘義務	「精保実習Ａ」の成果を踏まえ、実習において求められるスキル（言語化、記録、コミュニケーション、実習生としての立場の理解・自覚）について改めて認識を深める。教科書の「日本精神保健福祉士協会倫理綱領（称）」についても再度内容を理解する。
5	実習の具体的展開 （基礎編　第 4 章Ⅰ）	「精保実習Ａ」での体験を踏まえ、実習の具体的展開について理解する。 キーワード：事前オリエンテーション、陪席、実習スーパービジョン	「精保実習Ａ」での経験を踏まえながら、教科書の「2）配属実習における具体的行動」について内容を理解する。
6	実習指導者・実習担当教員の役割 （基礎編　第 4 章Ⅱ・Ⅲ）	「精保実習Ａ」の内容を振り返りながら、実習指導者・実習担当教員の役割について改めて理解する。 キーワード：実習指導者：実習プログラムの作成、実習担当教員：実習指導者との協議	「精保実習Ａ」での経験を踏まえながら、教科書から実習における実習指導者および実習担当教員の役割を理解する。
7	実習の留意事項・学習過程 （基礎編　第 4 章Ⅳ～Ⅴ）	「精保実習Ａ」での経験を踏まえながら、実習の留意事項・学習過程について改めて理解を深める。 キーワード：社会常識とコミュニケーション、自己点検、四者関係	「精保実習Ａ」での経験を踏まえながら、教科書「1　実習生が守るべき心得」、「2　実習指導者が留意すべき事項」、「実習担当教員が留意すべき事項」、「1　実習生の準備状況」について理解する。
8	巡回指導教員によるスーパービジョン、実習記録の指導、実習スーパービジョン （基礎編　第 4 章Ⅵ～Ⅷ）	「精保実習Ａ」での経験を踏まえながら、巡回指導教員によるスーパービジョン、実習記録の指導、実習スーパービジョンについて理解する。 キーワード：巡回指導、自己覚知、スーパービジョン	「精保実習Ａ」での経験を踏まえながら、教科書を読み、実習中に係る指導者の指導がどのような内容・目的で行われるのか理解する。
9	実習事後学習の具体的展開と実習評価の意味と方法 （基礎編　第 5 章）	「精保実習Ａ」での経験を踏まえながら、実習事後学習の具体的展開と実習評価の意味と方法について理解する。 キーワード：自己評価	「精保実習Ａ」での経験を踏まえながら、教科書の「図5-1 実習事後学習の具体的な展開」について改めて理解する。
10	実習評価の意義と目的および内容と方法 （基礎編　第 6 章Ⅰ・Ⅱ）	「精保実習Ａ」での経験を踏まえながら、実習評価の意義と目的および内容と方法について理解する。 キーワード：評価	「精保実習Ａ」での経験を踏まえながら、教科書の評価内容について改めて理解する。

回数	テーマ	学習内容･キーワード	学びのポイント
11	実習の各過程における評価ならびに実習評価について （基礎編　第 6 章Ⅲ～Ⅴ）	「精保実習Ａ」での評価を踏まえ、実習の各過程における評価ならびに実習評価について理解する。 キーワード：事前評価	教科書の実習に係る各立場における評価について理解する。本学で実際に使用している『評価表』と内容は異なるが、参考として教科書の評価表等から何について評価されるのか内容を改めて確認しておくこと。
12	実習施設・機関の目的・機能と役割 （実践編　第 7 章）	実習施設・機関の目的・機能と役割について理解する。 キーワード：精神科病院、精神科診療所	教科書のうち、特に「精神保健福祉援助実習Ｂ」の実習先機関である医療機関（精神科病院・精神科を標榜している病院・診療所）についてしっかりおさえておくこと。
13	主な実習経験と課題① （実践編　第 8 章Ⅰ・Ⅱ）	入院時または急性期、退院時または地域移行・地域支援に向けた患者および家族への相談援助について理解する。 キーワード：精神保健福祉法、守秘義務、ソーシャルサポート・ネットワーク、チーム医療	教科書の内容をしっかりおさえる。入院から地域移行・地域支援までの一連の流れの中での相談援助のあり方について理解を深めること。
14	主な実習経験と課題② （実践編　第 8 章Ⅳ～Ⅶ）	「精保実習Ａ」での経験を踏まえながら、改めて精神医療福祉における多職種連携とチームアプローチ、精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務、アウトリーチと地域ネットワークについて理解する。 キーワード：多職種連携、チームアプローチ、カンファレンス、ケア会議、連携調整機能、職業倫理、倫理綱領、秘密保持、ケアマネジメント、包括型地域生活支援（ＡＣＴ）、権利擁護者、秘匿権、チームケア、ピアサポーター、アウトリーチ（訪問）、社会資源	教科書の用語を理解した上で、教科書の事例から当事者参加の地域福祉計画作成について改めて整理する。
15	実習指導計画モデル （実践編　第 9 章）	精神科医療機関における実習計画について理解する。 キーワード：生活のしづらさ、チーム医療、精神保健指定医、強制入院、退院制限、隔離、身体抑制、行動制限、自己覚知	教科書の内容をしっかりおさえる。なお本学では保健所における実習は当面実施されない。教科書の「実習プログラム例」を参照に医療機関における実習の展開をイメージできるようにしておくこと。

■レポート課題

課題 1	**「精保実習指導 B －1」スクーリング受講前の課題** ①「精保実習 B 計画（案）」を鉛筆書きで作成し、所定の提出締切日までに郵送してください（提出締切は『試験・スクーリング　情報ブック』または『With』を参照ください）。 **（提出方法）** ・初回提出は様式14－ 1 を使用し、事前指導前の定められた期限までに提出すること。 2 回目以降の提出は様式14－ 2 ・14－ 3 を使用し、修正したものを提出すること。 2 回目以降の添削が不要となった場合、特に修正の指示がなければ、様式14－ 2 ・14－ 3 に改めて転記する必要はない（様式14－ 4 は予備として使用）。 ・送付の際は封筒表に「精保実習B計画（案）在中」と明記する。 ・宛名を明記した返信用封筒（A 4 用紙が三つ折で入るサイズ）を同封する（定形なら92円切手貼付）。 ・提出の際にはその都度、コピーをとって保管しておくこと。 ②『精神保健福祉援助実習 B 課題ノート』の「事前訪問までの準備」までを医療機関実習に対応させた内容ですべて完成（「事前訪問学習の主な課題」の部分は記入できる範囲で記入）させ、スクーリング時に持参し提出する。
課題 2	**「精保実習指導 B －1」スクーリング受講後の課題** ①実習先に事前訪問を行い実習指導者より「精保実習 B 計画（案）」の内容について確認を得た後、「精保実習 B 計画書（清書用）」を完成させコピー 3 部を大学宛に提出する。 ②実習先への事前訪問後、『精神保健福祉援助実習 B 課題ノート』の「事前訪問学習の主な課題」の部分を完成させる。 ③実習先への依頼状＝個々人で実習生として指導していただくことへの感謝とお願いの気持ちを込めて実習先へ実習開始 1 カ月前頃に依頼状（封書）を出す。
課題 3	**「精保実習指導 B －2」スクーリング受講前の課題** 事後学習は援助実習での自己の振り返りを行い、自己評価とあらたな課題設定に向けて、一定の整理を行うものです。下記に沿い課題にあたってください。 ①実習終了後、速やかに実習先へ御礼状（封書）を出す。 ②「精保実習 B 事後レポート（科目名：「精保実習指導 B」1 単位めに該当）」：4,000字程度を作成し、所定の提出締切日までに提出してください（提出締切日は『試験・スクーリング　情報ブック』または『With』を参照ください）。レポートにまとめる内容は下記 1 ）～ 4 ）のとおり。 1 ）実習を終えての全体的感想 2 ）実習前と実習後の精神保健福祉現場についての印象の変化 3 ）設定した課題の評価や自分のあらたな課題 4 ）実習を通して知りえた自分自身の評価も含めながら現場実習の成果と評価 実習で学んだことを分析・考察する内容であることが望ましく、単なる感想のみにならないように留意すること。 ※『実習記録』は、実習終了時に実習先に提出し、実習先から「実習生出勤簿」「実習評価表」と一緒に大学へ返送される。「精保実習 B 事後レポート」作成のため、実習先に提出する前に自分用の『実習記録』のコピーをとっておくこと。 ※通常のレポート様式で提出する。手書き用・パソコン用どちらでも可。 ③『精神保健福祉援助実習 B 課題ノート』のすべての課題を完成させる。

■アドバイス

課題 1 2 アドバイス

『精神保健福祉援助実習 B 課題ノート』に示す事前学習課題は、実習生として少なくとも踏まえておかなければならないものです。「事前訪問までの準備」の部分は、各自で文献等により調べ、施設機関等の依拠する法律、施設機関の組織や機能、社会資源の関連法規等について学び、事前指導スクーリングまでに整理してください。十分な準備によってまとめ

られた資料は、必ず実習期間中に役立つものとなります。

それぞれの関心領域に基づき積極的に学ぼうとする姿勢が実習には重要です。「実習計画（案）」の作成は学び方を客観的にまとめる作業ですので、何を学びたいのか、そのためにどう取り組みたいのかという視点で立案してください。その際、実習指導者が決まっている場合、指導者と相談しながら計画を練ることもとても有効です。

実習の受入機関は多忙な業務を割いて指導してくださることを忘れないでください。それに応えられるだけの成果を得るような事前の準備を心がけてください。

課題3 アドバイス

実習後、事後指導スクーリング前の課題は、実習体験やご自身の専門職としての適性を含めた十分な振り返りを行い、レポートにまとめてください。特に、専門職としての適性については慎重にご自身を見つめ直してください。実習の目標課題の達成度を含め、実習で得た内容を、自分の実習計画に即しながらまとめてください。

■参考図書

1）日本精神保健福祉士養成校協会編『新・精神保健福祉士養成講座 8　精神保健福祉援助演習（基礎・専門)』中央法規出版、2012年

2）福祉臨床シリーズ編集委員会編『精神保健福祉士シリーズ10　精神保健福祉援助演習（基礎)』弘文堂、2012年

■受講条件

『学習の手引き　2012–2016年度版』3 章Ⅴ－ 3「演習・実習指導スクーリング・実習の受講条件」【条件 5】参照。

■科目の評価基準

演習内容（60%）+ 実習事後課題レポート（20%）＋実習評価（20%）

※評価は総合的に行い、グループワークにおける協力や演習への積極的参加を求める。なお評価基準については、実習教育プログラムの質的向上を目的に適宜見直しを図り改定していく。